

## 一九九〇年度第五回運営委員会記録

日 時 一九九〇年七月二十一日

場 所 中央大学駿河台記念館

出席者 相川良彦、磯辺俊彦、岩本由輝、大野 晃、柄澤行雄、高橋明善、高山隆三、松田苑子、長谷川昭彦、安原 茂、吉沢四郎

報 告

△事務局▽

一 会員動向

新入会員：松谷真一（竜ヶ崎市立城南中学校）

佐藤雅也（仙台市歴史民俗資料館）

二 地区研究会開催状況

北海道・東北地区、関東・東京地区、中部・近畿地区の各地区研究会がそれぞれ予定通り開催された。それらの報告及び討論の記録は次号『研究通信』にまとめて掲載する。

三

『研究通信』一六〇号を五月二十五日に発行した。同号の発送時に会費請求書と本年度大会開催地である十和村の観光パンフレットを同封した。

四

『研究通信』一六一号は、各地区研究会記録を中心に現在編集中（一部入稿）で、八月初旬に発行予定である。

五

日本学術会議への研究団体の登録申請をおこなった。

△編集委員会▽年報二十六集の編集状況について

昨年度大会の共通課題報告のうち一本の原稿提出が著者の都合で遅れている。引き続き原稿の催促を行なうが、間に合わない場合には、掲載を断念せざるを得ない。

審議

一 本年度大会の運営方法について、開催校の大野晃会員からの準備状況報告を受け、以下の点が確認・決定された。

(1) 大会会場……十和村十川小中学校体育馆

(2) 宿 舎……民宿6ヶ所の分宿となる

(3) 懇親会……広瀬集落の四十川河原に舞台を設営し、十和

神楽・四十川の火振漁を観賞しながら行なう

(4) 費 用……宿泊費五、〇〇〇円（六、五〇〇円（宿舎—民宿）により料金が異なる）、大会参加費二、〇

〇〇円、懇親会費四、〇〇〇円

(5) 共通課題シンポジウムの報告者

相川良彦、嘉田由紀子の両会員から了承を得ているが、開催地からの報告者については、大野晃会員に引き続き交渉をしていただく。

(6) 参加申し込み状況（回答者のうち）

参加予定者八十四名、不参加七十九名、未定・不明十九名。

八月五日に最終的な参加・不参を確認するための通知を発送する。

二 大会自由報告の申し込みが七月二十一日現在で一本なので、次回の『研究通信』で再度募集する。

三 大会のシンポジウム等の持ち方を検討するための宿題委員会を八月三〇日午後二時より、中央大学駿河台記念館で開催する。

四 I R S Aへの加入、外国人農村研究者の招聘などの問題について、国際交流委員会（仮称）で方針を整理し、次期大会で提案・検討する。